

第10回ヘンデル・フェスティバル・ジャパン

《アルチーナ》公演について

堀江昭朗氏

『グランド・オペラ』Vol. 49 (2012年秋号) p. 161



野々下由香里
©Mariko Kubo

波多野睦美
©Hideya Amemiya

ヘンデル《アルチーナ》演奏会形式

◆演奏：三澤寿喜(指揮) キャノンズ・コンサート室内合唱団&管弦楽団◆出演○アルチーナ：野々下由香里○ルッジェーロ：波多野睦美○ブラダマンテ：山下牧子○モルガーナ：高橋薫子○オロンテ：辻裕久○メリッソ：牧野正人○オペルト：広瀬奈緒◆2013年1月14日(月・祝)

ヘンデル《アルチーナ》演奏会形式

バッハと並ぶバロック音楽最大の作曲家でありながら、ヘンデル作品は「メサイア」ばかりが採り上げられている。ヘンデル・フェスティバル・ジャパンは、声楽から器楽曲まで広範な作品を採り上げていくことで、直接的で劇的でもあるヘンデル作品の魅力のアピールしようと、2003年から毎年開催されている。メイン公演のほか、講習会やレクチャー・コンサートをを行い、研究と演奏の融合を目指すため、実行委員長でヘンデル研究者である三澤寿喜が指揮を執っている。今回は約40作品あるヘンデルのオペラの中でもっとも成功を収めた《アルチーナ》。ドイツでオペラ作曲家としての人気が低迷した折、ロンドンにコヴェント・ガーデン王立劇場が建てられ、そこに活路を見出したヘンデル。専属のバレエ団と合唱団を取り込んだ新しい形式のオペラを発表。そのひとつがこのオペラだ。

魔女アルチーナは、魔法を使って騎士ルッジェーロを誘惑し捕らえる。彼のかつての恋人ブラダマンテは彼を救い出し、真実の愛を取り戻す。本当にルッジェーロを愛してしまったアルチーナは魔力を失い、すべてを失ってしまう。

哀れな魔女に温かな眼差しが注がれているのが、ヘンデル作品の魅力のひとつだという。古楽でも活躍する日本人歌手たちによって、哀しい女の物語が蘇る。

Opera Guide
2012 November to 2013 April